

新年のごあいさつ

一般社団法人 多治見法人会 会長 **加藤 誠二**



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、つつがなく新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、平素は多治見法人会の活動に対し格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、国民が税金とその使い道、そして増え続ける国の借金に注目し、日本の将来について真剣に議論を深め始めた年でありました。

多治見法人会の活動を振り返りますとコロナ感染症の影響は弱まり、定時総会での4年ぶりの懇親会開催(5月)、税を考える週間の税金クイズと講演会(11月・可児市)や各地域での税の広報活動などコロナ禍以前のような活動を行うことができるようになって参りました。また、県連での運営研究会(2月)では、飛躍的な会員増強を実現した多治見法人会の活動報告「どうする多治見法人会」が、その内容と手作りの良さが好評で高い評価をいただきました。

部会活動では、青年部会が模擬面接を土岐商業高校と土岐紅陵高校で、租税教室を各市小学校4校、及び土岐紅陵高校、中京高校で行い、また、女性部会は小学校2校実施して、納税への正しい理解の普及に努めました。

10月にスタートしたインボイス制度は、社会保障の安定財源確保と財政健全化には欠くことのできない制度ですが、事務手続きの複雑さとコスト上昇という課題を抱えており、当会では数回にわたり説明会を開催いたしました。

本年も納税についての正しい知識と理解の普及に努めるとともに、重要施策のひとつである「税制改正に関する提言活動」にもより一層力を入れ、国民生活の向上に寄与したいと考えております。会員の皆様には、引き続き財政基盤強化につながる「会員増強」と「福利厚生制度の充実」をお願いするとともに、社会貢献活動でのご理解、ご協力をお願い申し上げます。本年が皆様にとって良き年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のごあいさつ

多治見税務署 署長 **黒柳 智**



令和6年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人多治見法人会の皆様には、地域社会の発展とともに平素から税務行政につきまして深いご理解と格別のご協力を賜り、また、租税教育や税の啓蒙活動等に多大なるご尽力を頂いておりますことを厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は皆様にとってどんな年だったでしょうか？

スポーツ界では、3月のWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)における14年ぶりの優勝や、慶應義塾高校の夏の甲子園での107年ぶりの優勝、そして阪神タイガースの38年ぶりの日本一など、「何年振りの快挙」が多かった年でした。

また、秋には藤井聡太7冠が王座のタイトルを制したことによる史上初の8冠達成や、大谷翔平選手の大リーグにおける日本人初の本塁打王や2度目のMVP授賞など、若い世代での活躍も私たちを勇気づけてくれました。

一方で、経済界を取り巻く環境は非常に厳しいものでありました。一昨年からのウクライナ情勢の影響による資源高から始まり、4月には日銀総裁に植田和男氏が就任したものの、低金利・円安基調には変化がなく株価は高水準で推移しているものの、夏以降はガソリン価格が過去最高となるなど物価高が続いています。

税務における一番の変化は、10月からのインボイス制度のスタートです。会員企業の皆様の多くは適格請求書発行事業者として適格請求書の交付や保存等お手をかけていますが、消費税が事業者負担を求めたのではなく、事業者が販売する商品やサービスに含まれて次々と転嫁され、最終的に商品やサービスの提供を受ける消費者が広く公平に負担するものであることを今一度ご理解いただき、引き続き適正申告・期限内納税にご協力をお願いいたします。

今年は辰年です。世の中の情勢は「辰砂変化」のごとく早くそして日々移り変わっていますが、多治見法人会が良き経営者を目指す税のオピニオンリーダーとして「辰心功成」更なるご発展をされること、及び会員企業の皆様の「飛竜乗雲」益々のご繁栄を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

参考

- ・辰砂変化(しんさへんげ：物事が変わりやすいこと、変化に富むこと)
- ・辰心功成(しんしんこうせい：辰のように勢いだった心は、きっと成功を収めること)
- ・飛竜乗雲(ひりゅうじょううん：竜が雲の乗って爽快に登っていくこと)